

「いっぱい遊べてよかったね。」

2月4日、「立春」です。まだまだ寒い日が続いていますが、南向きの保育室には暖かな陽ざしが差し込んでいます。

自由遊びの時間、年長組の保育室に行ってみると、女の子が二人でピンクや黄色や水色の丸い人形を作っています。

「何を作っているの？」ときくと、「コロコロ『すみっこぐらし』だよ。」と教えてくれました。

二人はとても楽しそうです。「この子たち、お家に入れたくない?」「そうだ。お家、作ろう。」

二人はお弁当箱くらいの空き箱を持ってきて、その箱のふたの部分ハサミで切り取り、その中に作った人形を入れました。

そして「せまっこだ!」と言って二人で顔を見合わせて笑っています。「すみっこ」ではなく、「せまっこ」だということです。子どもの言葉は本当に面白いと思います。

次に、一人の女の子が紙を細長く切りました。

「それは何?」と聞くと、「これは『持ち手』」と答えました。「持ち手」なんていう言葉を知っているのです。驚いてしまいます。手提げバッグが、すみっこのお家なのでした。

さらに、その女の子は発砲スチロールの丸いものにピンクの色を塗り、その手提げバッグの持ち手に、セロテープではり付けました。「こうすると、持ったとき、気持ちいいから・・・」と満足そうです。なるほど厚紙を切っただけの持ち手ですから、その丸い発砲スチロールをつければ柔らかくて気持ちよく持てそうです。

そして、その女の子は「これで、お出かけ!」とご機嫌です。

11時15分、片づけの時間になりました。二人はまた顔を見合わせて「いっぱい遊べてよかったね。」と言って、穏やかな表情で片づけを始めました。

思いっきり遊んだ後の子どもたちには、子どもながらに充実感があって、本当に幸せそうです。こういう経験をたくさんしている子は、将来少しくらい大変なことがあっても、決して投げ出したりしないで、何とか乗り越えていくのだろうなと思います。「明日もきっと楽しいことがある。」そんなふう明るく前向きに考えられる子になりそうです。

まだまだ大変な状況の中ではありますが、子どもたちのこういう幸せな時間を、大切にしていきたいと思います。

